



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2010.11

No. 319

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



渡良瀬遊水地の未来

内田孝男(古河市)

2008年10月下旬、韓国においてラムサール条約締約国会議(COP10)が開催されました。この会議にむけて「渡良瀬遊水地をラムサール登録地に！」と2006年度に埼玉県支部も支部を挙げて署名活動に加わり、おかげ様で多数の署名が集まった事はまだ記憶に新しいところではないでしょうか。残念ながら登録地になりませんでした。しかし、当時の藤岡町長へ署名簿提出、他2市3町の首長、4県知事及び国土交通大臣、環境大臣へ署名簿提出の報告を実施した事は、多方面へのアピールと、後につながる大きな道筋を作りました。

そしてCOP10から2年が経過しようとしています。これからの渡良瀬遊水地はどうなるのでしょうか…。最近の動向について、お知らせしたいと思います。

昨年末よりラムサール条約登録地に向けて2つの追い風が吹き始めました。

追い風その1. 一国土交通省の湿地保全・再生検討委員会と基本計画の策定

ラムサール条約登録地になるためには大きく分けて3つの条件があります。

- ①条約湿地であること。国際的な基準は9つあります。ここでは省略しますがいずれかを満たせば条約に登録が可能です。(環境省HP:ラムサール条約と条約湿地<http://env.go.jp/nature/ramsar/conv/2-1.html>)
- ②予定を含む国指定鳥獣保護区特別保護地区等として保全が担保されていること。
- ③地元自治体から賛意を得たものであること。地域での合意形成が重要で渡良瀬遊水地の場合、県及び管理する国土交通省も含まれます。

特に①②をクリアしていなければなりません。①について遊水地は基準を満たしているものがいくつかあります。②について、残念ながら現在担保されていません。③についても十分とは言えませんでした。このため、①をクリアしても②又は③のため、非常にハードルが高い状況でした。

ところが国土交通省は、平成14年から平成22年2月まで断続的に開催していた渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会(利根川上流河川事務所が設置)での最終のまとめとして、平成22年3月に渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画を策定し、この最終章で、[渡良瀬遊

水地をラムサール条約湿地に登録する地元の声も尊重し、「水と緑のネットワーク」の一拠点として、多様な魅力を持つ湿地とするとともに、将来はトキやコウノトリが舞うような魅力的な地域作りの一助となるよう関係者と共同・連携を強めていく]と記しており、前向きに結んでいます。

また遊水地内では、昨年度から、以前より規模の大きな湿地再生試験のための掘削等に着手しています。鳥獣保護法だけでなく、河川法や河川整備計画、さらに保全・再生基本計画を条約湿地の法的担保として登録を可能とすることはできないかと、環境省等と調整作業を開始しました(今年2月、ラムサール条約登録地を増やす議員の会の総会で明確に発表)。すなわち、必ずしも今までの②が必要ということではなく、状況は大きく変わり始めています。③も国土交通省が自ら動き始めていますので、後は地元の賛意の要件だけが問題となり、登録への要望をどれだけ強く示せるかによって決まって来ます。

追い風その2. 一南関東エコロジカル・ネットワーク形成に関する検討委員会

昨年末、国土交通省関東地方整備局河川部では、「南関東エコロジカル・ネットワーク改正に関する検討委員会を開催する」と発表しました。事業の中の1つで「南関東におけるコウノトリ・トキを指標とした河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策の検討や、将来のコウノトリ・トキの野生復帰に向

けた魅力的な地域づくりのための地域振興・経済活性化方策の検討を目的とする」というものです。この検討委員会は環境省が入っておりますが、進捗状況を注意深く見守る必要はありますが、注目すべき第1歩であると思います。コウノトリ・トキについては、保護飼育から試験放鳥と野生復帰に向け進めてきていますが、社会環境や行政サイドとしても本格的に人との共存を見据える段階に入ってきました。その1つの方策に、この検討委員会が生まれ南関東に5つの対象エリアを設けています。

- 1) 荒川流域エリア
- 2) 渡良瀬遊水地エリア
- 3) 利根運河周辺エリア
- 4) 北総(印旛沼・手賀沼)エリア
- 5) 房総中部エリア

であり、1)では鴻巣市、2)では小山市、3)では野田市が早くも関心を高めています。

とりわけ野田市長は、2012年度にも野田市内でコウノトリの放鳥を目指すとして述べています。また鴻巣市では7月に市民団体が豊岡市から中貝市長を招き講演会を開催しました。また9月20日には、過去に署名活動を実施したNPO団体が、栃木市においてやはり豊岡市より中貝市長を招きフォーラムを開催する予定です。将来の南関東が楽しみになってきました。

以上、「追い風その1：平成14年から湿地保全・再生の検討をしてきた。ラムサール条約登録地への要望も出ている」と「追い風その2：南関東エコロジカル・ネットワークの対象エリアである」を渡良瀬遊水地の未来に重ねると、ラムサール条約登録地ということがより現実味を帯びてくるのです。

2012年ルーマニアで開催予定のCOP11に向け、日本では2011年秋に新規登録する湿地を内定することが予想されます。逆算しますと2010年秋から2011年春にかけ地元から強力な条約登録の賛意を示す必要があります。

埼玉県では加須市がどのような対応にできるか期待されます。おそらく構成する4市2町の首脳会談、あるいは関係課の協議などが実施されるのではないかと思います。



チュウヒ(内田)

一方、環境省が中心となって進めている候補地検討会は、今年度6月25日に続き、2回目の検討会が7月26日に開催され、その資料の中で渡良瀬遊水地は、潜在候補地(案)192地の中に名を連ねています。8月24日に第3回を終えました。9月末までにリスト発表となるようです。

先月7月18日、チュウヒとその生息地である湿地の生物多様性の保全活動を推進するため、名古屋市で第3回「チュウヒサミット」が開催されました。その2日後の20日、講演された英国王立鳥類保護協会ミンズミア保護区シニアマネージャーのアダムローランズさんが(財)日本野鳥の会自然保護室の古南さん、浦さんと遊水地を訪れました。私は案内に誘われ同行いたしました。その後栗橋にある利根川上流河川事務所を訪れ、アダムローランズさんは約1時間にわたり、担当技官にチュウヒの保全と湿地再生のポイントを熱く伝え、「**渡良瀬遊水地＝ファンタスティック!**」と締めました。間近で聴けて嬉しかったです。英国から来た専門家が、素晴らしい所、と断言してくれたわけです。

ラムサール条約登録地にすることは非常に大変です。しかし、将来にわたり継続的に賢明な利用が可能になるよう、地域の人たちをはじめ、皆で考え支えあい進めていかなくてはなりません。そしてチュウヒやコウノトリ、トキをはじめ野鳥たちのためにも実現できればと思います。

2010年冬 カモ科調査

日本野鳥の会埼玉 研究部

2009/2010年冬は弱い暖冬で、本調査が実施された2010年1月9日から11日は比較的良好な天気が続きました。調査の結果、総数は去年並み、コハクチョウがやや持ち直し、オシドリは1羽で急減、トモエガモの低減継続などが目立ちます。県内41カ所、33名の方々のご協力に深謝します。(小荷田行男)

調査地	入間川	荒川				古利根川	大吉調整池	利根川	渡良瀬遊水地	狭山湖	小群川調整地	新河岸川	百穴湖	八丁湖	森林公園	武蔵丘陵	大沼公園	川越水上公園							
調査範囲	豊水橋、新富士見橋	荒川鉄橋、戸田橋	彩湖(道満) びん沼川		荒川大橋、明戸塚	玉淀河原	玉淀ダム	舟橋、堂面橋	藤塚橋、古利根橋	池全部	坂東大橋下流	貯水池	湖全部	川崎橋、寺尾調整地	公園内の池全部	大沼	池全部	池全部							
地域	狭山市	戸田市	川口市	さいたま市	さいたま市	富士見市	熊谷市	江西南町	寄居町	寄居町	松伏町	越谷市	春日部市	越谷市	本庄市	加須市	所沢市	川越市	川越市	吉見町	吉見町	滑川町	熊谷市	川越市	
コハクチョウ					62																				
オシドリ																									
マガモ	8	10	2																						
カルガモ	35	8	16	72																					
コガモ	20	2	29	34																					
トモエガモ																									
シシガモ			20	15																					
オカシガモ																									
ヒドリガモ		11		32																					
オナガガモ				1																					
ハンビロガモ					23																				
ホシハシロ			6																						
キンクロハシロ			98																						
スズガモ																									
ホオシロガモ				1		7																			
モアイサ																									
カウアイサ																									
カモsp																									
種数	3	3	10	5	3	0	2	4	3	7	6	10	5	3	7	7	2	6	3	4					
合計	63	21	204	163	74	0	16	181	33	26	307	2576	374	84	685	136	119	953	48	215					

県立農林公園	昭和沼	さきたま古墳	白幡沼	見沼自然公園池	柳瀬川	綾瀬川	元荒川	赤城遊水池	緑の丘公園	宝蔵寺沼	川島町越辺川	大宮公園ボート池	大宮第3公園	大宮公園	さいたま市芝川	さいたま市芝川	加田屋川	見沼代用水東線	見沼代用水西線	行田浄水場	はなさき公園	合計
芳沼	久喜菖蒲公園	古墳の池全部	沼全部	池全部	富士見橋、栄橋	武蔵野線、新栄団地	城北大橋、水管橋	池全部	池全部	池全部	八幡団地前	池全部	池全部	池全部	山口橋、八丁堤	八丁堤、荒川	七里公園、加田屋橋	七里公園、山口橋	浦和堰、附島橋	池全部	池全部	
深谷市	久喜市	行田市	さいたま市	さいたま市	志木市	富士見市	越谷市	さいたま市	桶川市	松伏町	羽生市	川島町	さいたま市	さいたま市	さいたま市	川口市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	行田市	加須市	
																						188
126	318	46				1	44		221	15	3	3			24		2	1				1
67	250	82	3	53	20	38	88	23	2	192	39	2	29	172	107	65	3	3		294	154	3049
366	44	68	1	12	24	65	72	15	74	12	114		48	176	43	60	28	193	4	398	167	2743
1	3													3	36					4		5
21	2													4	21		7				3	139
	41			13	16	66	70			1			11	43	82					39	85	2234
137	56		6	225			560				68	41		38	34	5				28		1310
1					3					1			2	29		3				4	15	105
123	24		3						2			4			4							227
426	175											58			1	8				279		1068
	2																					2
																						8
																						26
																						2
																						500
9	10	3	4	4	4	5	3	5	6	4	5	4	6	9	7	6	4	4	2	8	8	17
1266	915	196	13	303	61	216	230	904	95	208	349	105	97	540	279	142	143	197	1200	502	1424	



野鳥情報

さいたま市緑区大門 ◇7月7日、遊水池にセイタカシギ1羽。7月26日、セイタカシギ成鳥1羽、若鳥2羽。翌日も同群確認。さらにヨシゴイ1羽。7月29日、ヒナ3羽を連れ泳ぐオオバン1羽。繁殖していた！ヨシゴイ飛ぶ。8月20日、セイタカシギ6羽。8月25日、セイタカシギ3羽。9月3日、ソリハシシギ1羽、クサシギ1羽、タシギ5羽。9月6日、タシギ4羽、コガモ、オナガガモ(鈴木紀雄)。

蓮田市蓮田 ◇7月11日午前6時30分、ツミ♂♀がいて、ケケケケと鳴いた。7月16日を最後に姿が見えず、声も聞こえなくなった。昨年はヒナが育ったのに残念。9月4日夕方、70cmに刈り込んだ公園植え込みの細い枝に、まだ飛べないムクドリ幼鳥1羽。親がそばにいるはずなので、そのままにしておいた(本多己秀)。

さいたま市岩槻区城北大橋 ◇7月11日、城北大橋北側の電線にシラコバト1羽を久々に確認。ここの個体群も風前の灯火か(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区膝子 ◇7月20日、ムクドリ50羽士の群れの中にコムクドリ5羽士。7月22日、ムクドリ100羽士の群れの中にコムクドリ10羽士(鈴木紀雄)。



オオタカ(町田好一郎)

さいたま市岩槻区加倉 ◇7月31日夕刻、電線にずらりと並ぶコムクドリ200羽士の大群(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇7月31日、庭木のブルーベリーの実にたかるコムクドリ30羽士(鈴木紀雄)。

蓮田市笹山 ◇8月5日、水の入った休耕田にタカブシギ1羽、コチドリ10羽士(鈴木紀雄)。

春日部市笹山 ◇8月5日、休耕田にセイタカシギ成鳥2羽、若鳥7羽、タカブシギ1羽、イカルチドリ2羽、イソシギ2羽、クサシギ1羽、コチドリ60羽士。8月18日、アオアシシギ2羽、キアシシギ1羽、ムナグロ18羽、イソシギ3羽、コチドリ75羽士。9月3日、ヒバリシギ2羽、トウネン6羽、タカブシギ2羽、ムナグロ7羽、イソシギ5羽、コチドリなど。9月6日、トウネン2羽、タシギ4羽、アオアシシギ1羽、イソシギ、コチドリなど。9月8日、アオアシシギ1羽、クサシギ1羽、タシギ7羽士。9月13日、アオアシシギ1羽、ヒバリシギ1羽、トウネン4羽、タシギ1羽、コチドリなど。9月15日、アオアシシギ1羽、トウネン7羽など(鈴木紀雄)。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇8月8日、キアシシギ1羽、イソシギ約15羽。8月15日、キアシシギ2羽、イソシギ約15羽。8月29日、ケリ1羽、アオアシシギ1羽、クサシギ1羽、イソシギ約20羽。9月5日、トウネン1羽、アオアシシギ1羽、クサシギ1羽、イソシギ約20羽。9月11日、オジロトウネン1羽、トウネン約20羽、タシギ1羽、アオアシシギ4羽、クサシギ26羽、イソシギ約20羽、ミサゴ2羽。9月18日、オジロトウネン2羽、トウネン5羽、クサシギ2羽、イソシギ約10羽。9月22日、ツルシギ冬羽1羽、下嘴基部と足の橙色が目立つ。トウネン9羽、クサシギ11羽、イソシギ約15羽、エゾビタキ2羽、オオタカ若鳥1羽。9月25日、荒川は増水。アカエリヒレアシシギ幼鳥1羽、水面の岩の周辺で休んだり泳いだり。クサシギ1羽、イソシギ約5羽、シヨウドウツバメ約30羽、ミサゴ1羽(鈴木

敬)。

蓮田市西城沼公園 ◇8月10日、近頃、早朝にコジュケイの鳴く日が多い。公園に隣接する東城沼でカワセミを見られる日が多くなった。8月20日、実をつけたブルーベリーの木にメジロ、シジュウカラ、スズメ、ヒヨドリが群がっていた。サシバがハシブトガラスにモビングされて屋敷林の樹冠にとまった。今季の初認。エナガ3羽が屋敷林に消えた。8月24日、ウスバキトンボの大群が飛びまわっていた。8月29日、オオタカが何回も輪を描いて飛んだ後、南に飛び去った。林縁の電線にエナガが5羽とまっていた。繁殖したのだろうか。9月1日午前8時20分、8羽のタカ柱。サシバに混じってハチクマもいるようだ。高く舞い上がって南に流れた。午前9時10分、5羽のタカ柱。樹冠の上を旋回している。サシバだ。待ちにまったタカの季節がやってきた。これからが楽しみだ(長嶋宏之)。

戸田市彩湖 ◇8月14日午前9時頃、彩湖北部棧橋付近でオオホシハジロ♂2羽、4名で確認した。写真なし。(倉林宗太郎、高橋達也夫妻、川名)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇8月18日、午後5時30分、既に浮島にいたサギ類合計100羽±。その後、10羽、20羽と途切れることなく飛来し続けた。上空を通過していくものも多数。一度浮島に降りて、飛去するものもある。午後6時30分帰るころの浮島には400羽±のサギがいた。観察種はダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、アオサギ、カルガモ、バン(長嶋宏之)。

深谷市本田 ◇9月11日、芳沼北側の休耕田でタカブシギ1羽(鈴木敬)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇9月12日～13日、コサメビタキ2羽、エゾビタキ1羽。この日以後、連続して観察。9月25日、公園東側の堤防に沿ってミサゴ1羽が北上。台風吹き飛ばされて、元の場所に帰ろうとしていたのか(海老原美夫)。

さいたま市岩槻区掛 ◇9月15日午前中、アマサギ20～30羽。小さくて真っ白、嘴が黄色のカワイイ奴。ほかにチュウサギ、コサ

ギ、ダイサギ、アマサギも(本多己秀)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇9月20日午前中、シギ・チドリ類調査の途中で、他の3名の調査員たちとノビタキ1羽を観察。調査が終った午後、ゆっくりと撮影を楽しんだ。例年、シギ・チドリ類調査のころからよく見かけるようになる。この日は猛暑の残りが居座っていたが、その暑さのなかでもノビタキは渡って来ていた。Tシャツ短パンでノビタキを撮影したのは、あまり経験がないような気がする(海老原美夫)。

野鳥情報をお待ちしています

こんな鳥がもう渡ってきたよ。見慣れたあの鳥がこんなことをやっていたよ。こんな鳥を見たよ。みんなにちょっと知らせたい野鳥の情報を気楽にお寄せください。常連さんは引き続き歓迎、新人さんはもっと歓迎です。メールで toridayori@hotmail.com にお送りいただくのが最も便利です。写真も一緒に送っていただけると、カット写真として掲載できるかもしれません。はがきやFAX(048-825-0460)でも受け付けています。間違いがあるといけませんので、電話など口頭での連絡はお受けできません。まれに、お名前を忘れる方もいます。特にメールの場合、漢字のフルネームをお忘れなく。

いただいた情報はできるだけそのまま掲載しようと心がけていますが、全部を掲載することはできません。あまりにも首を傾げざるを得ない情報や、掲載になんらかの条件がつけられた情報は、見送らなければならない場合もあります。採否はすべて編集部にお任せください。

表紙の写真

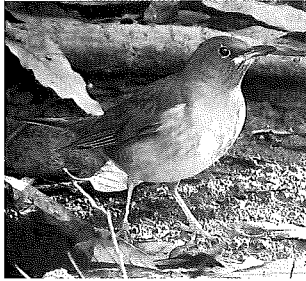
スズメ目ツグミ科ジョウビタキ属ジョウビタキ

昨年11月1日にさいたま市内で撮影。オス2羽以上、メス2羽以上が狭い範囲にいて、同性同士が激しく追い掛け合っていた。結局合計何羽いたのかよくわからない。翌日にはもう姿が見えず、静かなもの。

海老原美夫(さいたま市)



行事案内



シロハラ

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：11月3日(水・祝)

集合：午前9時20分、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨城急行バス③番乗り場から松伏町役場行き8:47発で、「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、田邊、吉岡(明)、榎本(建)、植平、野村(弘)、野村(修)、小林(善)、森下、進士、佐野、佐藤

見どころ：池でカモやカイツブリを観察し、近隣の屋敷林を巡り冬の小鳥や、近年めっきり減ったシラコバトを探します。お弁当持参でアフターも楽しみませんか。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月7日(日)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場(北口駐車場ではありません)。

交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、立岩、永野(安)、野口(由)、山野、長谷川

見どころ：紅葉が遅れても冬鳥たちは来ているでしょう。ジョウビタキ、ツグミ、シメなどの他に昨年はアトリが出ました。河川敷ではオオタカの飛翔を期待しましょう。

さいたま市・田島ヶ原自然観察会

期日：11月13日(土)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

集合：午前9時、桜草公園管理棟付近

交通：京浜東北線浦和駅西口から志木駅東口行きバス8:25発、または東武東上線志木駅東口から浦和駅西口行きバス8:10発で「さくら草公園」下車、徒歩約5分。武蔵野線西浦和駅から徒歩約20分。

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)

見どころ：研究部担当の自然観察会です。サクラソウ自生地の田島ヶ原と彩湖北岸は、荒川下流低地の原風景アシ湿原が広がっています。湿原に咲く晩秋の花々と、冬鳥も少し探しながら、中世から現代までの荒川下流低地の自然の変遷を見ます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、寄居8:49発。

担当：中里、千島、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、鶴飼、岡田

見どころ：木々が葉を落とし始め、鳥が見やすくなってきました。帰ってきた冬鳥たちと大麻生の晩秋を楽しみましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月20日(土)午後3時～4時ごろ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月21日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅

東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：冬鳥が勢揃いした見沼たんぼは紅葉に囲まれています。長旅の疲れを癒すカモたちを、ジョウビタキが紋付姿でお出迎え。ぜひ三室にどうぞ。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月21日（日）

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から、国民年金春日部エミナース行き8:41発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩約7分。

担当：石川、橋口、新井(良)、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)、進士、佐藤

見どころ：猛暑の夏は寒冬になるという。晩秋の雑木林や屋敷林、たんぼにはどんな鳥が姿を見せてくれるか。定番のツグミ、アオジ、コゲラ、シメ、タヒバリ、タシギとの再会が楽しみです。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月21日（日）

集合：午前8時45分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越8:10発、寄居8:10発。

担当：後藤、喜多、大澤、青山、新井(巖)、中村(豊)、千島、鶴飼

見どころ：晩秋の風が吹き、鳥見には最適な落葉の季節。川沿いに多くの冬鳥が姿を見せてくれるでしょう。ゆっくり散歩気分です。

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：11月21日（日）

前月号でお知らせしました。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（火・祝）

「日本野鳥の会埼玉」出発のご挨拶

代表 藤掛保司

長い間親しまれて参りました「日本野鳥の会埼玉県支部」の名称が、2010年11月1日「日本野鳥の会埼玉」に変更されました。

支部報『しらこぼと』で折りに触れ経過をご説明し、6月27日の日本野鳥の会埼玉県支部総会において承認決議されました。総会の様子は『しらこぼと』8月号でご報告したとおりです。

会員の皆様方には、色々な部署との関係があると思いますので、それぞれの関係先への名称変更の手続きや報告、個人で使用される名刺の変更など、様々なご迷惑をおかけしますが、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

事務局も、日本野鳥の会財団本部、関東ブロックの各支部・連携団体、郵便事業会社の第三種郵便関係、埼玉県自然環境課の補助事業関係などの変更手続きを行いました。『しらこぼと』の「行事案内」欄に、「青い腕章をした担当者に声をかけてください」とあります。その腕章とご案内用の旗も、新しく作り直しました。『しらこぼと』は「支部報」から「会報」に、「支部長」「副支部長」は、「代表」「副代表」に、「支部事務局」は「会事務局」になりました。

名称が変更となりましても、今まで通り『しらこぼと』の発行、探鳥会開催などの活動を着実に続けます。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。「つきみ荘」内には駐車できません。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、倉崎、小池(一)、小池(順)、藤田(裕)、小淵、鶴飼、千島

見どころ：異常気象を乗り越えて、カモたちは変わらぬ姿を見せてくれるでしょう。晩秋の空にゆったりと舞う猛禽類にも期待。ご注意：河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。トイレは仮設のものだけ。駅などで済ませておいてください。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月23日（火・祝）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：浅見、工藤、兼元、松村、赤堀、金子、船木、新井(勇)、野口(修)、柴野

見どころ：さいたま市に残された貴重な田園。公園の池や加田屋川にカモが、斜面林には小鳥たちが、そして空には猛禽類も。トイレも完備、ご家族連れでどうぞ。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月27日（土）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、杉原、藤澤、山口

見どころ：去りゆく秋、旧ワイスレダリー跡地の工事もありました。柳瀬川に来る冬鳥たちは元気に戻ってくるのでしょうか。多くの冬鳥たちが来てくれることを願い、川沿いを歩きます。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:38発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星、水谷、間正

見どころ：夏の猛暑と続いた残暑の影響で秋の実り、木の実が不作となっていなければいいのですが。ムクノキに集まるツグミの仲間やエゴノキの実をつつくヤマガラなどを探します。

蓮田市・黒沼探鳥会

期日：11月28日（日）

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木、赤坂

見どころ：晩秋ならではの農村風景を楽しみながらのんびりと歩きます。沼、アシ原、屋敷林などで、北の国から帰ってきた鳥たちが歓迎してくれるでしょう。去年は枯れたハスにヨシゴイが残っていましたが、今年は？

シンポジウム『生きもの地図を未来へ ～浜口哲一さんの足跡と、これからの道』

神奈川支部長だった浜口さんが提唱し実践した、市民による自然調べの成果と意義を再確認し、それを後世に継承していくためのシンポジウムです。あわせて来場者により本年5月に急逝された浜口さんへの追悼の意を表します。

日時：2010年11月27日（土）、13:30開演

場所：はまぎんホール、ヴィアマーレ（JR根岸線桜木町駅下車約5分、横浜市西区みなとみらい3-1-1、TEL045-225-2173）

定員：500名（先着順・事前申し込み不要）

参加費：無料

主催・連絡先：日本野鳥の会神奈川

後援：浜口哲一さんを囲む会、(財)日本野鳥の会など

講演

- ・市民調査で地域の自然とくらしを引き継ぐ
(財)日本自然保護協会 開発法子
- ・観察記録を重視した野鳥の目録づくり
日本野鳥の会神奈川 平田寛重
- ・マイフィールドに開眼した花ごよみ調査
神奈川県植物誌調査会 佐藤恭子
- ・最後の教え子が語る浜口研究室
神奈川大
- ・トコロジストはアマチュアの最高の喜び
こまたん 田端裕
- ・まとめにかえて一生きもの地図を未来へ
相模原市立博物館 秋山幸也

★18時(予定)から2時間程度の交流会も予定しています。

場所：「ベイブリッジカフェテリア」パシフィコ横浜会議棟6階、TEL045-223-2222（ホテル代表）、みなとみらい線「みなとみらい」駅から徒歩8分

会費：5,000円（横浜銀行中野支店 口座番号：普通 6004143、口座名称「浜口哲一さんを送る会」に、11月8日までにお振り込みください。



行事報告

6月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加：36名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ キジバト ホトトギス ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシボソガラス(26種)(番外：ガビチョウ) 梅雨入り前の最後の探鳥会。蒸し暑い中を出発。今日のテーマは幼鳥の観察。早速電線にツバメの幼鳥が餌を待っているのか並んでいた。上空をオオタカが滑翔。土手に上がると桑の実が熟していて、スズメやムクドリの成鳥・幼鳥が食べていた。畑でハクセキレイの幼鳥が採餌。ホオジロが枝先でバツタをくわえて立ち往生。巣が近くにあることを説明しすぐに移動。ホオジロ、カワラヒワが電線でさえずっていた。ホトトギス・キジ・ウグイスの声を聞きながら押切川原へ。オオヨシキリ、セッカがあちこちで鳴いていた。池のカイツブリの浮き巣を見ると、まだ親と雛4羽がいてくれた。親の後について泳いだりもぐったりして、皆そのかわいさを満喫。セグロセキレイの幼鳥、ホトトギスの飛翔、オオヨシキリを見て終了。

(千島康幸)

6月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

新井浩、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、武井暁嗣、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

6月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：75名 天気：晴

ゴイサギ アオサギ カルガモ キジ コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス

ハシボソガラス(23種) 梅雨の合間の暑い探鳥会だったが、代用水沿いの桜並木は涼しい。水溜りに来るツバメの土運びを見たり、ヒヨドリ、カワラヒワ等の水浴びを楽しんだりした。出現鳥の少ない季節だが、鳥たちの仕草が勉強出来た探鳥会になった。

(補見邦博)

7月4日(日) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

参加：49名 天気：曇

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ササゴイ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ コアジサシ キジバト カッコウ ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス(32種)(番外：ドバト) スタート直後にいつものカッコウではなくホトトギスが鳴いた。アシ原に沿って歩くとコヨシキリがさえずりを堪能させてくれ黄色の口の中もよく見えた。ササゴイの巣がある池の岸の小さな柳の木から、親鳥が出て間近に止まってくれたので模様が細部までよく見えて感激した。巣立ち雛も柳の木の中で動き、時々外にも姿を現した。帰路にコアジサシの乱舞とホトトギスの姿を見て暑い暑い探鳥会を終了した。

(玉井正晴)

7月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：31名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ キジバト ホトトギス カワセミ コゲラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシボソガラス(22種)(番外：ガビチョウ、ドバト) 曇空の大麻生駅前。電線にはツバメの幼鳥が数羽、親鳥が餌を運んでくる。繁殖期らしくハシボソガラスの幼鳥も登場。最終地点の旧押切橋ではカワセミの若鳥が魚を捕らえ、アシに止まる。池ではカイツブリの幼鳥も数羽見られた。

(後藤康夫)

7月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、

柴野耕一郎、志村佐治、武井暁嗣、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

7月18日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：34名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ オオタカ コジュケイ キジバト アオゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス キビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ハシブトガラス(19種)(番外：ガビチョウ、ドバト)前日に梅雨が明けた。それまで雨続きだったこともあり、相当な暑さに加えて樹林内の高湿度が予想されたため従来のコースを短縮して運動広場まで歩くことにして出発した。すぐにイカルが出て皆で見ることができた。木陰の道を歩くとウグイスやコジュケイの声。負けじとガビチョウの声。ふれあい広場のアカメヤナギの木でオオムラサキが2頭、カブトムシやスズメバチと一緒に食事中であった。アカマツ林からはオオタカの声。樹林に目をこらすとアオゲラの姿。樹下ではヤマユリの花も見られた。記念塔の近くではキビタキとイカルの合唱が聞こえてきたが、葉が茂っているため姿が見られなかったのが残念だった。野草コースではオオバギボウシやレンゲショウマなどの花も見られた。(中村豊己)

7月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：44名 天気：晴

ダイサギ カルガモ オオタカ キジ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(19種)暑いのに良く集まってくれたなと感謝しながら、リーダーは暑さ対策に全力を挙げる。恒例の博物館の研修生も8名参加、にぎやかな探鳥会になった。冷房の効いた博物館での車座になってのミーティングも顔の見える三室ならではの試みになった。(楠見邦博)

8月1日(日) 北本市 石戸宿

参加：25名 天気：晴

カイツブリ アオサギ カルガモ コジュケイ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ

シブトガラス(18種)(番外：カルガモとアヒルorマガモの雑種)連日の猛暑の中、参加者も少ない。鳥を求めてと言うよりは木陰を求めて、木陰ごとに十分に休憩を取りながらの実施となった。幸いにも、その休憩時に鳥を見ることが出来た。エドヒガンザクラから戻る途中での休憩では、1本の木にコゲラ、シジュウカラ、メジロを多数。北里の林では、アオゲラ(声を聞くだけでなく一部の人は姿も)、冬に泥さらいをして水面が広がった高尾の池(プランクトンで真っ赤な水面)では2羽のカワセミ。しかし、暑さのためかガビチョウの声は一度も聞こえなかった。(吉原俊雄)

8月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コジュケイ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス(18種)(番外：ガビチョウ)日本一の酷暑で有名な熊谷での探鳥会。スタートする前からじわじわ汗がにじみ出てくる。駅前から踏切を渡って土手に出る。途中の小路ではサルスベリがこの暑さを楽しんでいるように咲き誇っていた。早速ホオジロが電線でご挨拶してくれた。ツバメはこの暑さを気にすることなく気持ちよさそうに行き交っている。この暑さの中でウグイスは元気に鳴いていた。河原に出ると池でカイツブリの親子が出てきた。愛らしいしぐさで皆を癒してくれた。荒川の対岸では、ゆったりとサギ類が採餌していた。ゴルフ場の木陰で鳥合わせをした。暑い暑い探鳥会だった。(中里裕一)

8月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：30名 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ バン イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(23種)三室を愛する参加者で賑やかなお盆の探鳥会。毎回参加の小学生I君がすぐにオオタカを発見。カワセミも芝川でゆっくり見られた。涼しい博物館で鳥合わせして、支部長の三宅島の鳥の話が好評だった。(楠見邦博)



●「全国定期探鳥会記録データベース化」と「野鳥情報全国ネットワーク」に参加します

財団本部自然保護室から、全国の支部・連携団体の協力を得て、定期探鳥会記録をデータベース化し、生物多様性の現状を客観的に評価することなどに役立つ事業と、メーリングリスト利用により野鳥に関する情報を短時間で収集発信する野鳥情報全国ネットワーク事業への参加の呼びかけがありました。

当会では山口芳邦幹事がすでに全探鳥会記録をデータベース化していますので、同幹事を担当者として、両事業に参加することになりました。

●関東ブロック協議会に出席

9月4日(土)と5日(日)の2日間、千葉県長生郡一宮町で、千葉県支部担当の関東ブロック協議会が開催され、当会からは藤掛保司代表(当時支部長)と海老原美夫副代表(当時副支部長)の2名が出席しました。

主なテーマであるブロック運営要領と細則の改正は、すでにメール交換で議論が重ねられていたので、千葉県支部の提出した改正案が、問題なく承認されました。

5日(日)午前は宿近くでの探鳥会が予定されていましたが、藤掛と海老原はそれを欠席して、埼玉県支部のリーダー研修会に駆けつけました。

●普及活動

9月7日(火)、さいたま市浦和区を放送対象区域とするラジオ局浦和FMに、楠見邦博監事が出演して、日本野鳥の会、支部の理念、活動状況などをPR。特に三室地区定例探鳥会の

内容を話して、誰でも参加できる探鳥会への参加を呼びかけました。

●会員数は

10月1日現在 2,053 人です。

活動と予定

9月11日(土) 10月号校正(海老原美夫、大坂幸男・志村佐治・藤掛保司・長嶋宏之)。

9月19日(日) 役員会(司会:橋口長和、各部の報告・集合旗作成の業者選定とデザイン案・その他)。

9月21日(火)「支部報だけの会員」に向け 10月号を送送(倉林宗太郎)。

●11月の予定

11月6日(土) 編集部・普及部・研究部会。

11月13日(土) 12月号校正(午後4時から)。

11月20日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

11月21日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

7月号の編集後記で田植え時の低温を気にしたが、その後の高温続きで稲は順調に生長したものと思っていた。自然環境は長い目で見れば平均化されるのかな、などとのんきなことを考えて。ところが今度は高温過ぎて、収穫した米の品質があまり良くないとか。やっぱり単純なものではないんだと思う秋の夕暮れなのです。(海)

今年のヒガンバナは10月になってから満開だった。熱中症で亡くなった方も多かった猛暑の夏だったが、草花たちも同様に大変だったようだ。そう言えば、毎年近隣で鳴いていたヒグラシの声も、ついに聞けなかった。冬鳥の繁殖地ではどうだったかな。今年もいつもおりに来てくれるのかなあ。(山口)

しらこぼと 2010 年 11 月号(第 319 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社